



令和7年度 一般社団法人愛知県産業資源循環協会主催 夏休み親子で環境・資源リサイクル体験ツアー



日 時 令和7年7月31日(木) 参加者 31名(14家族)



一般社団法人愛知県産業資源循環協会では、夏休みに親子で産業廃棄物のリサイクル施設や自然体験学習施設を訪れる環境・資源リサイクル体験ツアーを開催しました。廃棄物リサイクル施設の見学や、循環型社会の形成に向けたさまざまな取り組みの紹介を通じて、環境問題をより身近に感じていただくとともに、夏休みの親子での楽しい思い出づくりのお手伝いもさせていただきました。



コンテナの前で説明を受けている参加者のみなさん

バスの車内では、小野俊之専務理事の「本日はご参加いただきありがとうございます。普段なかなか見ることのできない工場や施設を見学しながら、資源循環やきれいな環境を支えている多くの人たちの存在を知る機会として、楽しんでもらえればと思います。」というあいさつに続き、国立大学法人豊橋技術科学大学 学生支援統括センター（研究推進アドミニストレーションセンター、先端農業・バイオリサーチセンター、大学院工学研究科 応用化学・生命工学系兼務）教授（工学博士）の大門裕之先生から、ご自身とスタッフの紹介や子ども向けの環境教育を交えたお話をありました。その後は、参加者全員の自己紹介も行われ、賑やかな雰囲気に包まれて体験ツアーがスタートしました。

学習1の加山興業株式会社は、昭和26年の創業以来、産業廃棄物処理業者として適正処理とリサイクルに取り組み、環境保全を目的にリサイクル100%を目指して技術向上に努めています。また、KAYAMAファームでの作物栽培やミツバチの飼育を通じ、事業が環境へ悪影響を与えていないことを示し、地域の不安解消にも努めています。

工場見学は市田リサイクルプラントで実施し、入口のコンテナ内に設置された環境学習コーナーでは、主に取り扱っているリサイク

大門裕之 先生

国立大学法人豊橋技術科学大学
学生支援統括センター（研究推進アドミニストレーションセンター、先端農業・バイオリサーチセンター、大学院工学研究科 応用化学・生命工学系兼務）教授（工学博士）



ル資源についての説明とあわせて、会社概要の説明も受けました。その後、実際に工場内で行われているリサイクル作業の様子を見学しました。太陽光パネルリサイクルでは、まずフレーム外し機でアルミ製の枠を取り外します。その後、カバーガラス剥離装置にて、プラスチックと呼ばれる大量の細かい硬い粒を、太陽光パネルのガラス部分に高速でぶつけることにより、表面のガラスを剥離します。独自のふるい条件で粉状になったガラスとプラスチックを分離することで、高精度なガラスリサイクル及びプラスチックのリユースを実現しています。さらに、モジュールに含まれる金属部分も、マテリアルリサイクルしています。

銅ナゲット（米粒ほどの大きさの銅の粒）製造ラインでは、産業廃棄物や解体工事などから出る建設系廃棄物に含まれるコンセントや廃電線、OA機器リサイクルラインから出る雑線などの被覆導線を処理。被覆導線を細かく粉碎し、風力と比重差選別を利用して、被覆と銅に選別することで、資源となる銅ナゲットを効率的に製造しています。



スケジュール

名鉄東岡崎駅南口集合

学習1 加山興業株式会社

廃棄太陽光パネル処理機の見学及び
ミツバチプロジェクトの紹介等

学習2 株式会社鈴鍵

1. 自然環境の中でバーベキュー（昼食）
2. ウッドチップリサイクルシステムやビオトープを通じて、循環型社会に向けた「環境と共生」の取り組みを見学
3. ブルーベリー農園にてブルーベリー摘み取り体験
(ブルーベリー食べ放題)

名鉄東岡崎駅南口解散



工場見学の後は、豊川リサイクルプラントへ移動し、隣接地で行っているミツバチプロジェクトを見学しました。採集されたハチミツの成分を分析し有害物質が検出されていないことを確認し、同社のリサイクル事業が周辺環境へ悪影響を与えていないことを実証しています。

使用済みの資源が選別・洗浄・破碎といった適正な処理の工程を経て、再び原材料として利用される「マテリアルリサイクル」の現場を目の当たりにし、参加者はとても興味深そうでした。例えば、不要となったプラスチックや金属類が適切に処理され、再び新しい製品の一部として活用されていく様子は、まさに限りある資源を無駄にしない循環型社会の実現を感じさせるもので、ものづくりの根本的な仕組みに触れる貴重な機会となりました。その処理工程のひとつひとつには高度な技術と工夫が凝らされており、目を見張るような再資源化の現場を前に、参加者は熱心に見入っており、関心をもって見学している様子でした。

学習2の株式会社鈴鍵 下山バーカー公園には13時ごろに到着し、まずはブルーベリー農園のバーベキューコーナーで昼食をいただきました。猛暑日でしたので、冷たい飲み物とともに、バーベキューでお肉や野菜をおなかいっぱい味わったあとは、多くの品種が実るブルーベリー畑で、大人も子どもも関係なく参加者全員がブルーベリー摘みを楽しみました。





昼食後は、矢作バーク製造工場にて、ウッドチップリサイクルの製造工程について説明を受け、実際の現場を見学しました。ウッドチップリサイクルとは、伐採や剪定の際に発生する枝葉、根株、竹など、これまで十分に活用されてこなかった樹木廃棄物（低質材）を森林資源として再利用する取り組みです。

矢作バーク製造工場では、これらの資源を受け入れ、破碎や選別などの工程を経て、土壤改良材「矢作バーク」として生まれ変わらせています。こうしてリサイクルされた資材は、造園工事や農業分野で活用されており、森林資源の有効

活用とともに、自然の循環に貢献しています。廃棄物を出さず、すべてを資源として再利用する「ゼロエミッション」の考え方を体現する、持続可能な取り組みとして、参加者の関心を集めました。

次に、設立20年を誇るビオトープ公園（約6,000m²）を散策しました。こちらは、周辺の動植物が自然に生息し、共存できる環境を目指した公園として開放し、子どもたちの環境教育に役立てるとともに地域の自然を守っています。次世代の子どもたちに自然体験を通して、自然の仕組みを学んでもらい、自然を守り育てる心を養成します。





令和4年には「あいち生物多様性企業認証制度」において「優良認証企業」に認定されました。公園内には、里山の風景が丁寧に再現されており、カブトムシの森や実のなる森、めがね橋、ちびっこ岩、池や川など、自然の姿をそのまま生かした景観が広がっています。生い茂る木々や、ふわりと漂う樹木の香りが、普段の街の風景や夏の厳しい暑さを忘れさせてくれるようでした。そんな自然の中で、初めはお父さんやお母さんと一緒に行動していた子どもたちは、次第に自分たちだけで探索したり、自然と触れ合ったりしながら、のびのびと学ぶ姿が見られました。

全行程を終えた帰りのバスでは、大門先生の楽しいお話に加え、アクティブラーニング形式での振り返りも行われ、笑い声があふれる中、賑やかにツアーの締めくくりとなりました。加山興業株式会社様、株式会社鈴鍵様、貴重な体験をさせていただきありがとうございました。





リサイクルツアーに参加して

R6-1 青山 珠智子

動機

私は、夏休み中に「親子で環境・資源リサイクル体験ツアー」に参加しました。これは、一般社団法人愛知県産業資源循環協会が主催したツアーです。ツアーでは、愛知県内の2つの企業を訪問・見学し、各社での環境に対する取り組みについて学びました。一学期に授業で学んだ「SDGs」や「植物のはたらき」について通じる部分が多くあり、学びがありました。そこで、2つの企業紹介と共にまとめていきます。また、ツアーに同行してたくさんのこと教えてください。国立大学法人 豊橋技術科学大学教授の大門裕之先生から、ツアーが終了する直前に出されたクイズをひで先に紹介します。このクイズの答えは、自分の学んだ事つながるので、最後のまとめの部分に書きます。

クイズ：ごみ箱の「ごみ」は漢字で書くと何？？？

加山興業(株)について

- 昭和27年創業
- 名古屋と豊川に本社をおく



加山興業

廃棄物処理業

環境

ソリューション事業

- 建物解体
- みんな電力のエネルギー普及支援など

環境・社会貢献活動

- 環境教育授業
- ヒツバチの育育



①サマルプラント

→ 3種類の焼却炉で処理し、無害化された水蒸気のみを排出する

②蛍光管再生プラント

→リサイクル率99.9%

③固体燃料RF製造ライン

→石炭に変わるエネルギー

④太陽光パネルリサイクル

⑤銅ナゲット製造機

→リサイクル率80%

⑥OA機器処理

→使用済みのケイタイからは約330gとれる

天然の鉱石からは約3~40gとれる

→約10倍



★ごみとして回収された様々なものが、技術によって新たな資源に生まれかわっていることが、すごいと思いました。

(株)金井金建について

- 昭和34年に発足(金建木材)
- 豊田に本社をおく

①伐採工事

②造園工事

③資材販売

(生き物がありのままに生息活動する場所)
④下山バーカバー→豊田市→ビオトープの設計

施工管理



ウッドチップリサイクルシステム

伐採やせん定した木材、また台風などで倒れた木から出る樹木廃棄物を森林資源として100%利活用するシステム。



①バーカー工法

②フィルターネック工法

③エコ法棒工法

④肥料にする

→専用の破碎機で細かく

→(2段階をへて、どんどん細かしく)→

→野菜づくり用、たんぱく質促進剤をまぜる

→肥料として土を豊かにする

(リサイクル率100%)



★豊富な森林をただ伐採して、木材として利用するだけではなく、様々な形に変えて再利用する取り組みは日本の林業の進化形だと感じました。

ツアーパーに参加して考えたこと

「リサイクル」に対する考えが広がった

これまで「リサイクル」というと、ペットボトルや新聞紙の回収くらいしか思いつかなかつたのですが、この2社のように社会の中で企業が大規模に行っているリサイクル活動があることがわかり、環境問題解決について、前向きな気持ちになれました。また、自分の住む愛知県にこのような素晴らしい取り組みをしている企業があり、ほんらしい気持ちになりました。



SDGs

2社の取り組みから、「SDGs」の中の⑦・⑫・⑬を実践していると感じました。

- ⑦エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ⑫つくる責任 つかう責任
- ⑬気候変動に具体的な対策を



最後に

まとめと共に同行してくださった大門先生からのクイズの答えを書きます。

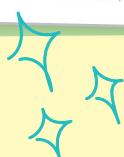
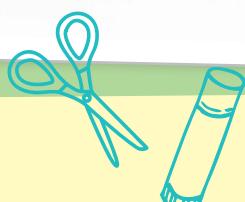
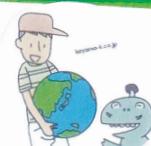
Q ごみ箱の「ごみ」は漢字で書くと何???

A

ご	み	箱
護	美	箱

「きないものを入れるは、ではな
く、うっくりをまもるは!!
ごみはするものではなく、再利用
できるものと、どうえ直してみる!!

→これから環境問題を考える時のキーワードは「循環」だと考えます。社会の中で資源を循環させるように行動する事が大切!! 大門先生からのクイズにこめられたメッセージもそうではないかな?と思っています。
これから私たちは、もっと智慧を出し、技術をつかって、循環する地球にしていきたいです!!



青山珠智子さん

植物の大切さ



鈴鍵さんの下山ハーブパークで改めて感じたことは、「私たちの生活は植物が基となって成り立っている」ということです。そして、自然が私たちの幸せをうみ出してくれているとも感じました。

・植物が空気中に酸素を放出してくれているから、私たちは呼吸ができる

→ビオトープの森の散策は、空気がひんやりして、とても気持ちがよかったです。

会社の方は、街の公園に遊具ではなく

・食物連鎖では、植物が一番下で支えてくれている→ウッドチップ由来の肥料で作られたブルーベリーはとても美味しい! ブルーベリーをつくっていきたいとおしゃっていました。

・会社の方は、街の公園に遊具ではなく

・食物連鎖では、植物が一番下で支えてくれて

いる→ウッドチップ由来の肥料で作られたブルーベリーはとても美味しい!

見つけたポイント

各所を見学してずっと私の頭の中に浮かんでいたイメージは、「○」です。

つまり、環境を良くしていくには、「ごみを出さない」とよりも、「ごみを変える=「循環」」することが大切ではないかということです。

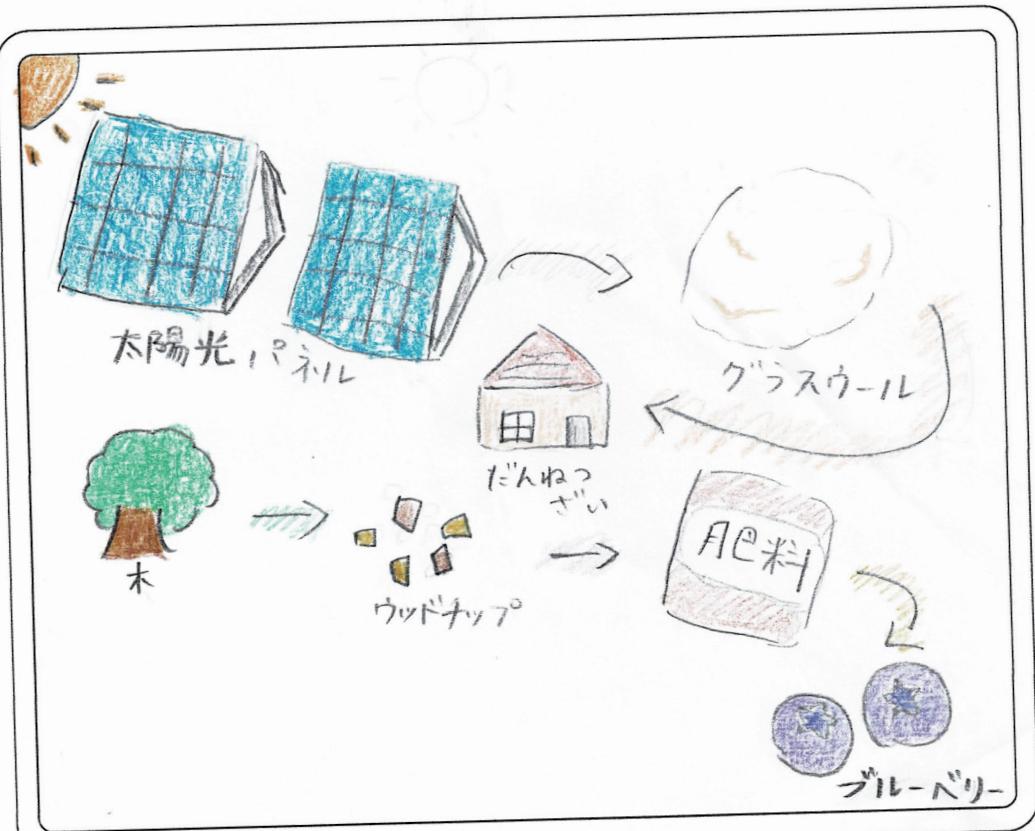
加山興業さんは、ごみを焼却して、無害な水蒸気を出し、処理場の近くでミツバチを育てて、はちみつを作っていた。

また、鈴鍵さんは、木材のごみを肥料にして土に還し、再び農作物を作っていた。どちらも、廃棄物から新しい価値をみ出す循環活動をされていると感じました。



(7月31)日(木)曜日

リサイクル工場



()番 名前(鶴見友唯)

私は7月31日に加山興業と下山パークパークに行きました。まず太陽パネルを処理する加山興業に行きました。太陽パネルをこねます。時の音が大きくておどろきました。加山興業ではニッパチプロジェクトをして、ニッパチがころとろかみますといふことをはうめざできるそうです。下山パークパークで、ウッドチップをリサイクルして、肥料にして、その肥料で育ったブルーベリーを食べました。とてもおいしかったです。資源やごみのことをよく知りてよかったです。

鶴見友唯さん

令和8年 安全標語〈スローガン〉を募集します！

会員の皆様へのお願い

一般社団法人愛知県産業資源循環協会
安全衛生委員会委員長 伊藤泰雄

当協会では、令和8年の「労働災害ゼロを目指す」啓発企画として、「労働安全衛生」をテーマとした安全標語（スローガン）を募集します。

会員企業の安全に対する意識を高め、事故や労働災害のない産業廃棄物処理業を目指すために、職場や家族へも広がりやすく、親しみやすい、オリジナリティあふれる作品をお待ちしています。

応募資格 当協会の正会員・賛助会員の役員・従業員・その家族、協会職員

応募締切 **令和7年11月28日(金)必着**

賞及び副賞

- ◆最優秀賞〈1作品〉／賞状・副賞クオカード3万円
- ◆優秀賞〈3作品〉／賞状・副賞クオカード1万円

(1) 一人3作品まで、自作で未発表のものに限ります。

(2) 応募者の①会社名、②住所、③氏名、④安全標語の4点を記載し、FAX、メール、郵送等により、当協会事務局までご応募ください。

※応募様式は特に定めていません。

審査方法 当協会の安全衛生委員会及び理事会で審査し、入賞作品を決定します。

発表・表彰 表彰式を令和8年2月4日開催の「第13回安全大会」で行います。

その他の 入賞者の氏名、会社名は、本誌でも発表し、最優秀作品は年間標語として、協会の各種広報活動等に使用されます。
なお、入賞作品の著作権、その他一切の権利は、当協会に帰属します。なお、著作権等に関わる問題が生じた場合は、全て応募者の責任でご対応ください。

応募先

一般社団法人愛知県産業資源循環協会（事務局）
〒460-0022 名古屋市中区金山2丁目10番9号 第8フクマルビル5階
TEL (052)332-0346 FAX (052)322-0136 Email info@aisankyou.com

令和7年度 最優秀賞受賞作品

安全はみんながリーダー・みんなが主役、あなたが示せ安全行動
株式会社リバイブ 平沼佑基